

「カラッポのおうち」使えます

「カラッポのおうち」は原子力発電事故に直面したみなさんが休養する家です。埼玉県長瀬の使われていない民家を2月からみんなで補修し、いよいよ、使えるようになりました。避難生活を余儀なくされた方、放射線量の高い地域にいて外で子どもを遊ばせる場所になやんでいる家族、そうした方々の保養と休養の場所です。

家族が寝泊まりできるように布団など寝具を10組用意しました。冷蔵庫や食器、煮炊きできる鍋など、最低限の台所備品は用意してあります。自炊になりますが、しばらく滞在し静かな時間を過ごせると思います。

秩父鉄道「波久礼」駅から徒歩20分ほどのところですが、

スーパーやコンビニなどはない田舎です。車でいらっしやることをおすすめします。交通費をだすことはできません。ごめんなさい。駐車場はあります。不便な田舎なので困ったことが起こるかもしれません。敷地内に管理棟があり管理人を置きますので、ご相談ください。

詳しくは、ホームページ <http://karapponoie.web.fc2.com>（「カラッポのおうち」で検索できます）をごらんください。夏を迎えて秩父の山々は濃い緑におおわれています。近隣の方もバーベキューや川遊びをしにやってきます。夏休みを利用して、心と体を田舎暮らしでリフレッシュしてください。おまちしています。



福島県、郡山に行ってきました

5月31日、会員有志4人で郡山に行って来ました。NPO法人FUKUSIMAいのちの水の坪井さん（写真中央）を訪ねました。郡山数カ所に倉庫を構えて、寄贈されたペットボトルを無料配布しています。当日の空間放射線量は0.3μシーベルト、2年前と同じ。事前受付件数1500件、配布できるのは700件。受付件数はこれまで月に100件ぐらいずつ増えているそうです。水道水に不安を感じているお母さんたちがそれほどいと知り、身の引き締まる思いがしました。「カラッポのおうち」には一度に1~2家族しか迎えられませんが、必要とされていることがよくわかりました。

★大人の気持ち

原発事故の年末に福島県田村の仮設住宅に、ケーナを持って演奏会に行きました。原発から30キロ近く離れた地域の仮設住宅で避難されて方々への演奏会でした。▼横浜から車で移動しましたが、福島県に入ってから、同行者共々、身体に異常が起きました。低放射線障害の症状によく似たもので、皮膚がつっぱり、涙が出てくるなど短い時間の滞在でも放射能の怖さを体感しました。▼福島は東京から高速道路で行けば、たったの2時間しかない距離です。▼そんな近くの隣人が恐怖の中で、生きていると想うと、なにかアクションをとらなくてはと考えるのが、ごくごく普通の人間のあり方なのではないでしょうか？忙しい日々の中で何ができるのか自問自答の毎日ですが、できることしかできません。迷いながらも微塵なことを積み重ねていくことしかできそうにありません。（ケーナ演奏家S）

ふかふかのお布団があります



子どもたちとその家族のために布団を用意したいと思いましたが、高いのでびっくり。でも、狭山の布団屋さん「樂」の若社長が会員になってくれました。「商売なので、ただとはいきませんが破格値で納品できます」と6組の新品「ふかふか布団」が備え付けられました。

続いて「冷蔵庫をあげます」というお話があって、そのお宅を訪ねると「使っていない寝具を持っていきますか？」と聞かれました。雨の高速道路を栃木から長瀬まで、軽トラックで冷蔵庫と数組の布団を運びました。

さらに、管理人の親戚から「使っていない新品の布団があるから取りに来て」と連絡。あわせて、10組の「ふかふか布団」がそろいました。

「6タコ賞」って？

会員のSさんは、NPO「ハンズオン！埼玉」が主催する「タコファンド」という助成金活動に応募しました。「カラッポのおうちの“おふとん”が欲しい！」と心を込めてプレゼン。なんと助成順位6位、名付けて「6タコ賞」に入賞、5000円を獲得。参加者から「福島の子どもたちが訪れて楽しい体験が積めますように、がんばってください」「暖かい布団が早くそろって、自然の中で泊まって楽しめるといいですね。“おふとん”って言葉、大好きです」などメッセージ寄せ書きももらってきました。「カラッポの会」はみんなが参加できるように会費負担を少なくして、多くの人に参加しやすい会にしました。そのかわり、財布（会計）もカラッポ。でも、多くの人が集まれば「大人ができること」はたくさんあります。「大人ができること」をやれば「ふかふか布団」もゲットできます。

会員80人をこす。お披露目総会を計画中

6月30日現在、会員は80人を超えました。これまでは、口コミによって、一人また一人と会に加わってもらってました。これからは、もっと多くの人に「カラッポの会」のことを知らせましょう。きっと、一回りも二回りも大きい会になっていくことでしょう。会員を増やして、福島の子どもたちとその家族をつつむ大きな暖かい輪をつくりましょう。会員参加による「おうち」お披露目会などを計画中（次号で日時などをお知らせします）。

カラッポの会資料

長瀬やなせ “カラッポのおうち” の会 会則

第1条（名称） この会は「長瀬やなせ “カラッポのおうち” の会」（略称：「カラッポの会」）と称する。

第2条（目的） この会は、放射能被害を受けた子どものための家（「長瀬やなせ “カラッポのおうち”」）の運営とサポートを目的とする。

第3条（会員・会費） ①この会は、会の目的に賛同し協力する個人で構成する。②会費は、原則として無料とする。ただし、会の活性化に努力し、資金面で会を援助する会員は、有料会員1000円の年会費とする。

第4条（活動） この会は、「長瀬やなせ “カラッポのおうち”」を、放射能被害を受けた子ども等が休養する場所にするため、それぞれ、できる力をだし協力しあう。

第5条（会報） この会は、会報「カラッポのおうち」をときどき発行する。

第6条（総会） 総会は、年1回事務局が招集する。総会では、次の事項を議決する。①年間活動報告および計画 ②予算および決算 ③会則の改正 ④事務局員の承認 ⑤その他、会の運営上必要と認められる事項

第7条（事務局） この会の事務局は、有料会員有志で構成する。

第8条（会計） ①この会の経費は、会費およびカンパをもってあてる。②「長瀬やなせ “カラッポのおうち”」の利用料はすべてカンパとして会計収入とする。3. この会の会計年度は1月1日より12月31日とする。ただし、2013年度に限り2013年3月24日を開始日とする。

第9条（大人の誓い） 放射能汚染被害から子どもをまもるために大人ができることをやります。

長瀬やなせ「カラッポのおうち」の会・事務局 ◆連絡電話 090-8442-1364(杉村) FAX045-774-9282(鈴村)

◆郵便振込口座00210-9-53948 カリーナ横浜公演 ※ 専用口座を準備中です。